

浜田市学校図書館活用教育研究指定校  公開授業 研究協議	数学科  平成 29年3月15日（水）多目的教室
研究の視点  ①浜田市内の本の貸し出し状況を資料として提示したことは、生徒の関心意欲を引き出すことに有効であったか。 ②グループ活動は、生徒の学びあいに効果的であったか。	

●①について

・浜田市内の本の貸し出し状況を資料としたことはよかったが、学年が1～3年の1クラス分だったので、全校または学年全体の資料を提示すればさらによかった。

●②について

- ・作業に時間がかかりすぎて、グループ活動が不十分であった。
- ・ヒストグラムや代表値をもとに弥栄中学校と比較して生徒がいた。しかし、相対度数を求める必要があると話したときに、自分が考えていたことを変えてしまった生徒がいて、残念であった。相対度数については本時の学習を踏まえて、次時の学習につなげればよかった。
- ・生徒が、ある中学校と比較して弥栄中学校がよく読書していると書いていた。このことが本当に正しいと言えるかどうかを考えることがおもしろいのかなと感じた。

●③その他について

・ヒストグラムや代表値について生徒は理解しているように思えたが、相対度数の意味が分かっていない生徒がいた。なぜ、相対度数が必要なのか、具体例があるとよかった。

●指導助言●

〈澤田 出 指導主事より〉

・数学は生活に欠かせないもので、あらゆるところに活用され、つながっているので、日常生活を意識したものをしてほしい。数学で分かりやすく基礎を習い、他教科のデータを見て、見方や気付きが変わってくると感じた。

〈北川 史信 指導主事より〉

- ・本時の目標を「比較しよう」ではなく、「どちらの学校が優秀でしょうか」と問うと、自分たちが調べた代表値やヒストグラムなどから、様々な意見や考えが出たのではないかと思う。そして、それらを話し合うときに、生徒それぞれがデータの注目するところが違うので一層様々な角度から意見交換ができ、生徒の効果的な学びあいに繋がっていくと思う。
- ・相対度数を求めることは必要なことであるが、求めただけで終わってしまい、比較する材料にまで至っていなかった。相対度数の度数分布多角形を書くグラフもあればよかった。
- ・統計資料がよい動機付けになるので、学年がそろえばさらによかった。

